

2016年 解析計画実習コラム

10月4日

今日は突然よんどころない事情で記者会見とやらに出席のため出張せざるを得なくなり(申し訳ない)、講義・実習ともに米本先生にお願いすることに。そんなわけで先生はいないので楽しく実習してもらいたい。まあこの記者会見に関連して、8月、9月の忙しかったこと、次から次へと書類が来て、あまりの忙しさに3回くらいは死にました。それがようやく一段落したと思ったのも束の間、先週の木曜は医薬品医療機器総合機構へ疫学の講義に。なんでも機構の職員を対象に例年「薬剤疫学研修」とやらを実施しているそうなんだが、今年からデータベースを使った市販後安全対策を軌道に乗せるため、機構の全職員を対象に例年よりも拡大した研修をすることになったとかで、先生も2回講義に行くことに。先週は夕方から疫学1のイントロで話しているスノウ先生とコレラの話とアスピリンとライ症候群のお話し。120名くらいが聞きに来ていてびっくりでした。で、金土は島根大学に講義とワークショップで出張。こちらは医療経済の博士1期生だった廣瀬昌博先生のご要望で今年で4回目。金曜は講演の後、駅前の鮎屋でみなで一杯。島根は遠いが魚がうまい。この日もふぐ刺しからはじまって、とてもうまい車海老など、おいしい魚と島根の地酒をいろいろいただき、飲み過ぎ。土曜は朝から恵子の先生の講義と臨床研究のプロトコルをぶっ叩くワークショップ。いやあ、ひどいプロトコルでした。で、ワークショップもぶじに12時に終わり、[献上そば 羽根屋]で出雲そばをいただく。恵子先生と割り子蕎麦の5段と三色割り子(3段割り子にとろろやかつおぶしなど3種の薬味がのったもの)を注文し、割り子1段をわけて先生は4段割り子。出雲そばは、というより羽根屋は、というべきか、水準以上でたいへんおいしい。出張続きで疲れる週末だったが、機構も島根も受講者が意欲的だったのでよかった。

10月11日

楽天で買い回りが始まると、ついついいろいろと買ってしまうのはなぜだ。なにも買う物がなくとも、『どうせ飲むから』とビールや酒、ワインなどを注文してしまう。先週も買い回りがあり、島根に行ったときに出雲富士を4本買ったにもかかわらず、また日本酒を注文してしまった(ついでにビールも買っているのだ)。なぜかというと獺祭の「等外23」の4合瓶を2300円で売っていたから。獺祭の「磨き2割3分」ときたら4合で8100円もしてとても買えたもんじゃないが、「等外23」は等級外の山田錦を2割3分まで磨いた酒で、等外米を使っているので「大吟醸」とは名乗れない、とのこと。これは買わないわけにはいかないではないか。で、土曜はその「等外23」を飲むためにこれはもう刺身だろう、ということに。錦で天然ものの舞茸を一山(といっても普通の「一山」の2.5倍くらいの量)500円という破格のお値段で売っていたので、これはホイル焼きに。さて等外23は、というと、香りがいい。果物の香りがし、あっさりときれいな飲み口。魚、特に刺身は脂がすごくて意外と量はたくさん食べられないものだが(船盛りなんて見た目は豪華だが、量が多すぎて食べきれた試しがない)、日本酒は魚の脂

をさっと洗い流してくれる。舞茸もおいしく、恵子先生とふたり、つつい酒が進んでしまう。

10月18日

土曜日、天気が良かったので、うちの近くの[ともえ]の三段弁当(1080円、京都お値打ちお昼ご飯の一つである)を食べた後、バスで神宮丸太町に出て、鴨川の河原を丸太町から四条までぶらぶら歩く。そこから錦を通過して買い物をしながら大丸へ。乾燥しているのどが乾いたのでジュースでも飲もうか、とお酒売り場を通ると石川の銘酒「宗玄」が来ているではないか。「今の時期しかない秋おろし」などと言われると試飲しないわけにもいかず、一杯飲めばいろいろと勧められ、飲めばうまいのは決まっているので、しかたなしに四合瓶を一本買わされる。のどが渴いているところに酒ではますますのどが渴く。大丸のジュースサーバーでミックスジュースを買っていると、これまたジュースを飲みに来た竹下さん一家と遭遇する。連れ合いに「統計の先生の」なんて説明していたが、そこは「医療統計の先生」だよ、竹下さん。

10月25日

日曜、恵子先生は産婦人科学会の地方会とやらで朝からメルパルクで講演というので、じゃあお昼は京都駅近辺で、ということに。おいしいラーメンが食べたいとのことなので拉麵小路に行くことにする。ネットで拉麵小路の店を調べると、トンコツが多く、トンコツでない店は白樺山荘、大勝軒、坂内食堂、麵屋いろは。恵子先生は醤油ラーメンモード、つけ麺もいやとのこと、富山ブラックは以前食べたので、喜多方ラーメンの[坂内食堂]に決める。お昼過ぎに拉麵小路の入り口で待ち合せ。拉麵小路はいつもすごい行列で、ばかばかしくてあきらめることもままあるのであるが、この日は珍しくそれほどでもなく、行列している店はずの苦手なトンコツの店ばかり。坂内食堂は2人しか並んでいないので、食券を買って待つ。焼豚ラーメンとねぎラーメンを頼み、トッピングを半分交換する目論見だ。ほどなく店内に案内され、ラーメン登場。丼はやや小ぶり、焼豚ラーメンは丼を焼豚が覆いつくしていた。スープはあっさり目、澄んでいていいお味である。焼豚はおいしいのであるが、3分の1くらいが脂で、身体に悪そうなので脂は残す。麵は喜多方の平打ち麵、この麵自体は悪くないのであるが、先生の好みとしてはもうちょっと固めがよかったかな。全体的にはとても満足のいく、おいしいラーメンでした。さて、帰ろうと、拉麵小路の中を歩いていると、トンコツの店の前に来ると激しく豚臭く閉口する。高校・大学のころは荻窪ラーメンで有名な[春木屋]に通っていたくらいラーメン好きで、統計数理研究所にいたときも、青山の[かおたんラーメン]によく食べに行っていたが、いずれも鶏ガラ醤油のあっさりスープで、この味に慣れてしまっているため、豚骨スープはもうほんとうにダメ。特に臭いがだめで、恵子先生とあの豚くさい臭いはなんとかならないのかね、と言いながら、ふと、『豚骨ラーメンが好きなのはあの臭いで、ラーメン食べたらい、と思うのでは』という疑問が浮かぶ。さて真相はいかに？ 豚骨好きの諸君の感想を待つ。

11月8日

10月29日はJCOG(日本最大のがん臨床研究グループ)肝胆膵グループの会議があり、築地のがんセンターに米本先生、恵子先生と出張。お昼はお弁当が出るのであるが、出張旅費の中に(不思議な)「日当」というものがあり、これは最寄駅からのバス代や昼食代も含まれているようで、お弁当が出るとその分調整しないといけならしい。そんなの面倒だし、せっかく築地に行くのであるから築地のおいしいものを、とお昼は3人で場外市場に。豊洲に移転しても場外は残るとのことであるが、観光客で目白押し。築地と言ったら寿司、であるが、どこも混んでそうなのと恵子先生が親子丼を食べたいというので、この日は鶏肉専門店の鳥藤へ行くことに。鳥藤もいつも行列しているのであるが、奇跡的にひとりも並んでおらず、すぐに座れた。医療統計OBの味の素に勤める高田さんは鳥藤の塩親子丼が親子丼の中で一番おいしい、と言ってはばからないので恵子先生は塩親子、先生と米本先生は鳥飯。高田さんにはすまんが、塩親子はまあフツー、やっぱり醤油の親子の方がおいしい、と結論した。鳥飯はしぎ焼、鳥そぼろ、鳥皮(かな?)の煮たのがご飯の上にかかっており、これまたうまい。これでひとり800円はお得。ついでに喜与村で甘塩鮭の切り身と石橋でわさびを買う。

11月15日

土曜はgacco統計学IIの対面授業で、京都には8名の受講者が参加した。去年は22名だったのでだいぶ少ないが、その分フレンドリーな雰囲気ので授業ができた。みなさん統計はわからないなりに熱心で、こちらもおもしろかった。土曜も働いてやれやれと帰宅して一風呂浴びたらさっそく宴会である。ポテトサラダ、にんじんサラダ、カマンベールチーズでヒューガーデン白、コナビールのゴールデンエール。講義した後のヒューガーデンは格別にうまい。コナビールは期待して買ったのだが(けっこうお高い)いたってフツーのビールでもう買わない。隠元の胡麻胡桃和え、平天・ごぼ天ときたらもう日本酒である。出雲富士の改良雄町純米吟醸、酸味がありうまい。隠元はいつも胡麻和えにするのだが、胡桃があったので半分胡桃にしたらこれまたうまい。出雲富士がなくなったので仙禽を開ける。と、これがなんとも表現できないのが悔しいが、米のうまみがして非常にうまい。実は別な酒を買ったついでにこの店でしか買えないという仙禽特別醸造、というのがあったのでたまたま買ったのであるが大当たりであった。スペアリブの角煮と煮玉子を肴に仙禽がどんどん空いていくが、まあいいか。

11月22日

薬剤疫学のみなさんは薬剤疫学会、ご苦労様。特別講演の森和彦先生は、12月13日に講義・実習にきていただけるので、たっぷりお話しを聞くことができます。乞うご期待。

さて、日曜はミステリーツアーと称しておでかけ。まず祇園[森幸]でお弁当を食べ、腹ごしらえする。ここのお弁当も1000円で、味ま野ともえの三段弁当と並ぶ京都三大お値打ちランチのひとつ。で、知恩院前から市バス202系統に乗りミステリーツアーのはじまり、はじまり。恵子先生は『なんだ東福寺か』と思ったそうだが、この時期人人人…のところには行かない

ので素通り。で、『なんだ東寺か』と思ったそうだが、ここも素通りして羅城門下車。ちょっと道が分からなくなり Google Map の助けを借りたものの、羅城門から 5 分ほどで[京都醸造]に到着。そう、今日は昼飲みである。荒木さんが以前行きたいとレポートの感想に書いており、そのときは「夏は暑いからもう少し涼しくなってからにしたら」とコメントし、先生も涼しくなってから行こうと思っていたのだが、今年は急に寒くなり行く機会を逸してしまった。ここ数日は暖かかったので今しかない、とミステリーツアーを組んだ次第。醸造所はほんとに醸造所で、一角に立ち飲みのブースがあり、外にビールケースに板を打ち付けた簡易テーブルと簡易椅子があるのみ。ビールは 6 種類、まずは「欧州の風」(Belgian Blonde)と「秋風のように」(Pale Ale)をいただく。ビールは 400ml のグラスが 600 円。すでにかかなりの人数が外で飲んでいて、持って行ったカップえびせんとかシューナッツをつまみに昼飲み開始。欧州の風はまあまあ普通であるが、秋風のようにパールエールとはいうものの、アンバーっぽくもありかなりおいしい。1 杯目ですでにぼよよんとなっているが、せっかくなのだから 2 杯目に行かないわけにはいかないだろう。ついで、「黒潮の如く」(Strong Stout)と「維新伝心」(セゾン)、さんまのおろし醤油の缶詰も開ける。周りの皆さんはすごいペースで飲んでいる。ふたりなのでなんとか 4 種飲めたがひとりだと 2 種が限界か。試飲スペースなんだから全 6 種類が飲めるテイastingセットがあればいいのであるが。幸い暖かく、ビール日和の秋の午後でした。

11 月 29 日

11 月 16 日は「医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討会議」なるものに行ってきた。これまで海外では承認されているのに日本では使えない薬があつておかしい、と厚労省はさんざん叩かれてきたが、薬事法(医薬品医療機器法もたぶんおなじ)上では企業が申請してこなければ承認できないため、日本に導入しても儲けが少ないとか、わざわざ臨床試験をしてまで日本に導入する価値は…、といった薬は企業が申請しないので日本では使えなかった、というのが実情。で、厚労省が上記の長い名前の会議を立ち上げ、学会や患者団体からの要望を募り、審査して未承認薬については企業に開発を要請し、適応外薬は要望内容が公知の事実(諸外国で承認されていたり、メジャーな医学雑誌に臨床試験結果が掲載されているなど)と判断されれば臨床試験をせずに公知申請できる、というもの。昨年までは薬事・食品衛生審議会の医薬品第二部会の委員をしていて、会議はほぼ毎月、とてつもなくたいへんであり、2 期 4 年で辞めると決めていたのであるが、「未承認のほうは年に 4 回ですからそんなにたいへんではないですよ」、と騙され説明され、8 月からついつい引き受けてしまった。先週で 2 回目なんだが、新医薬品の審査と違って未承認薬・適応外薬は医療統計家がいてもあまり役にたたないような気がする。珍しく 2 回の会議で発言ゼロ。定足数があるのでしかたがないのであるが、これだったら 2 時間の会議のために東京まで往復 4 時間半かけていくのはばかばかしいよなあ。新幹線にも乗りあきたし、なんとかならんものだろうか。

12月6日

gacco「統計学 II」がほぼ終了。今回は今年の初回開講にくらべると、ディスカッションボードも受講後アンケートも比較的小となしかった。そもそも統計学 II は、「統計検定 2 級レベル」、「統計学 II」と言っているんだから、『統計検定 2 級に受かるためには、これくらい知っていないといけませんよ』、『統計学 II の前に、3 級レベルの統計学 I は受講しているよね』と考えるのは当然だと思うのだが、「統計学 I を受講していないのに、統計学 I で学びました、と言われても」、「受講者は統計学の初心者なので、もっと丁寧な説明を」と言われてもなあ。一番驚いたのは、最終確認テストの(山崎くんがわからなかったという)医薬品の安全性の問題で、「講義では対数を習っていないので、習っていない問題はださないでほしい」という意見。きみたちのデマンドがきついのは、授業料を払っているからまあ我慢するとしても、無料の gacco でそこまでいわれても。70 分から 90 分の動画を 5 週観ただけで、なにも調べもせずに理解できるわけではないことはみんなならわかってくれるよなあ。もうこれで e-learning は二度とするまいと思っていたのだが、いろいろな事情でまたせざるを得なくなる。やれやれだ。

12月13日

承認審査に関わるようになったのは統計数理研究所にいたときのこと、当時はまだ PMDA なんて影も形もなく、厚生省の審査管理課の職員数名と調査会という外部の委員で医薬品の承認審査を行っていた。ある日厚生省から電話があり、生物統計家が足りないので調査会の委員になってほしい、といわれ血液製剤調査会と生物学的製剤調査会の委員を京都にくるまで 6 年勤めた。その間、ICH 統計ガイドラインの厚生省代表もやらされ、これはほんとにたいへんだった。で、京都に来るのを機会に、審査のお仕事はすべて清算して、きれいな体で着任したのであるが(笑)、医療統計の卒業生が PMDA の安全部に勤めたり、今日の講師の森先生が厚労省安全対策課長、PMDA 安全管理監になったりして安全対策の仕事をするようになり、さらには 2011 年から薬事・食品衛生審議会医薬品第二部会の委員もやらされる羽目に。第二部会は無理を言って 2 期 4 年で辞めさせてもらい、安全対策にシフトしたつもりが未承認薬・適応外薬検討会議に続いて、例によって「年に 4 回程度ですから」と騙されて薬事・食品衛生審議会の薬事分科会委員を引き受けざるをえなくなってしまった。

1月10日

年末は、いろいろあって 10 月締め切りだった原稿を出版社に泣きを入れて 12 月末まで延ばしてもらったものの、書き出したのは 12 月も半ば。なんとかぎりぎり仕上げ、27 日は東京でエコチルのワークショップ、28 日は医学部のファカルティデベロップメントで一日ホテルに缶詰め。30 日は医療統計のみんなで恒例の鍋記念日、とあわただしい年末であった。明けて新年、昨年吉岡くんのレポートの感想にドラクエのことが書いてあったので、すっかりドラクエモードとなり、ドラクエ 4 をはじめてしまう。細かいところなどもうすっかり忘れていて、主人公の勇者が仲間と合流するまでちょっと手こずる。(油断していて 3 回死んだ。)年内に

も 11 が出るらしいし、それまでに 9 まで終わるかな。今年はドラクエ三昧になりそうな予感。

1 月 17 日

先週末は寒かった。寒いときには酒に限るので、日曜、海老芋と鴨の炊いたの、豚白菜、小松菜とあげの炊いたの、テキトー蕪蒸しを作る。7 時過ぎに一杯はじめ、最初に軽くビールを飲み、あとは宗玄の初しぼり純米生原酒。「この時期だけです」につられて買ったものだが、これがうまい。酒の肴のようなものばかりなので、どんどん日本酒が進み、恵子先生とふたりで 4 合空けてしまった。雪見酒と称して、降りしきる雪を見ながらの酒はおつなものであった。